

緑内障、結膜炎、白内障、ドライアイ等、点眼剤による治療が必要な疾患は多くありますが、点眼剤を正しく使っていますか？正しい点眼剤の使い方をしないと、点眼剤の効果が十分に発揮されません。そこで今回は、意外と知らない点眼剤の正しい使い方をご紹介します。

● 点眼剤の種類について

- ① 水性点眼剤**
使用前に特に振る必要はありません。むしろ振ることで泡立ってしまい、適切に点眼することが難しくなる可能性があるため注意が必要です。
- ② 懸濁性点眼剤**
保管時に懸濁性粒子が容器の底で固まっている状態になるので、**使用前にしっかりと振る必要があります。**
- ③ 用事溶解型点眼剤**
薬剤の安定性等の問題により、使用直前に2つの製剤を混合して使用します。このようなタイプのお薬は、**混合後の使用期限が定められていること**より注意が必要です。
- ④ 油性点眼剤**
効果が発現するまでゆるやかで、長時間作用します。



● 点眼剤の基本的な使用方法

- ① 手をせっけんと流水でよく洗います。
- ② 下まぶたを軽く引き、1〜2滴を確実に点眼する。
- ③ 目をパチパチせず、しばらくまぶたを閉じる。あふれた薬液は、清潔なガーゼやティッシュで拭きとる。
- ④ そのまましばらく（1〜5分）まぶたを閉じるか、涙嚢部（目頭のやや鼻より）を指先で軽く押さえる。

Point 点眼後に目をパチパチしない
容器の先を目尻につけない

まばたきによって目から鼻にお薬が流れ出てしまいます。点眼後はまばたきをしないようにしましょう。

点眼液が汚染される原因になります。容器の先がまぶたやまつ毛、目に触れないように注意しましょう。

容器の先を目尻につけない方法として、「げんこつ法」があります。

キャップを外し、点眼容器を持ちます。もう片方の手でげんこつを作ります。

げんこつを下まぶたにあて、軽く下にひきます。

げんこつに点眼容器を持つ手をのせ、1滴（※）を確実に点眼します。

※医師または薬剤師の指示がある場合はそれに従ってください。

● 複数の点眼剤を使用する場合に気を付けること

緑内障の治療や眼科手術後には、複数の点眼剤を使用することがあります。複数の点眼剤を一度に使用する場合には、主に以下の点に気を付けて点眼してください。

- ① 点眼剤の順序**
 - ★より効果を期待したい点眼剤を後から点眼する。
 - ★点眼剤と眼軟膏を併用する場合には、眼軟膏を後にする。
 - ★水性点眼剤と懸濁性点眼剤では、懸濁性点眼剤を後から点眼する。
 - ★その他にも、お薬の効き方により、順番が定まっている組み合わせがあります。複数の点眼剤が処方された場合は、医師又は薬剤師に確認してください。
- ② 点眼剤の間隔**

少なくとも**5分以上**あけるようにして下さい。2種類以上の点眼剤を使用する場合、点眼間隔が短いと先に点眼したお薬は、後に点眼したお薬によって洗い流されてしまい十分な効果が得られないことがあります。

● 点眼剤の保管について

① 点眼剤の保管場所

点眼剤を保管する上で注意すべき点は、「温度」と「光」になります。



～光に不安定な点眼剤の遮光袋～

- ① ほとんどの点眼剤は、室温（1〜30℃）での保存が可能です。
 - ② 一部の点眼剤は、「10℃以下の保存」「冷所保存」が必要です。
 - ③ 冷蔵庫で保管する場合には、冷え過ぎによる「凍結」に注意してください。
- ① 基本的に添付されている点眼剤の袋に入れて保管しましょう。
 - ② 特に遮光保存が必要な点眼剤の**保管袋は、袋自体に遮光する働きがあるので、必ず添付されている袋に入れて保管**しましょう。
 - ③ 遮光保存が不要な点眼剤でも、直射日光にあたる場所での保管は避けましょう。

② 点眼剤の保管期限

開封【前】→ 点眼容器ラベルに記載されている使用期限

- 開封【後】→
- ◎**用事溶解型点眼剤**
薬剤ごとに溶解後の保管方法・使用期限が定められているため確認すること。
例) ベストロン点眼用
「溶解後は、冷所保存で7日以内に使用し、その期間を過ぎたものは使用しないでください」
 - ◎**用事溶解型点眼剤以外**の点眼剤
開封後の使用期限は特に定められていませんが、開封後1か月を目途に使い切るようにしましょう（基本的に、1か月で使い切れる量が入っております）。



● コンタクトレンズ使用時の点眼について

点眼剤には**コンタクトレンズをつけたまま使用できるものと、コンタクトレンズを外してから使用するもの（コンタクトレンズをつけたまま点眼できないもの）**があります。使用上の注意などをよく読んで使用して下さい。病院・薬局で処方される点眼剤については、医師・薬剤師の指示を確認してください。

★防腐剤

点眼剤の容器内で細菌やカビが発生しないように、防腐剤が添加されていることがあります。防腐剤が入っていることで微生物の増殖が抑制され点眼剤の使用期限が長くなる一方で、これらの成分は**濃度や接触時間の長さにより、コンタクトレンズや角膜に影響を及ぼす可能性がある**ことが報告されており注意が必要です。

塩化ベンザルコニウム

塩化ベンザルコニウムは、陽イオン界面活性剤の一種で、細菌の細胞膜を変性させることで、殺菌効果を示します。消毒剤等として広く使用されており、点眼剤に添加される防腐剤としても頻用されています。

★コンタクトレンズの種類の違い

- ・ハードコンタクトレンズ → 基本的には、装着した状態で点眼して問題ない場合が多い。
- ・ソフトコンタクトレンズ、酸素透過性ハードコンタクトレンズ
→ 装着したまま点眼すると、点眼剤の有効成分や防腐剤が、角膜、コンタクトレンズ等に影響を及ぼす可能性がありますので、コンタクトレンズを外した後、点眼するようにして下さい。
→ 点眼後にコンタクトレンズを再度装着する場合は、**十分に時間（5〜15分を目安）をあけて下さい。**